

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

2017 AUTOBACS SUPER GT Report

SUGO GT 300km RACE

第4戦 スポーツランド SUGO

ZENT CERUMO LC500

#38 立川祐路／石浦宏明

◆7月23日(日) RACE

決勝結果 13位

<公式予選>天候：雨 コース状況：ウエット

ランキング3位につけるからこそその厳しいウエットハンデに苦戦し、7月22日(土)に行われた公式予選では12番手と苦戦を強いられたZENT CERUMO LC500。決勝レースの巻き返しを目指し、LEXUS TEAM ZENT CERUMOは準備をしっかりと整え7月23日(日)の決勝日を迎えた。



決勝日のスポーツランド SUGO の天候は、天気予報どおり雨模様。ただ、朝方は一時雨も止み、ピットウォーク開催時にはふたたび降り出す……という非常に不安定な天候だ。ピットウォーク後、今度は雨が止み、ふたたび路面は乾きつつあった。午後1時55分からスタートしたウォームアップ走行では、そんな路面の感触を確かめつつ、1分25秒768というベストタイムをマークし、11番手につける。

スタートドライバーを務める立川祐路は、ふたたび ZENT CERUMO



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

LC500 のステアリングを握り、26,200 人という観衆が見守るスターティンググリッドにつける。この時点で路面は急速に乾いており、チームはスリックタイヤを装着し、午後 2 時 30 分のスタートの刻を待った。



しかし、パレードラップの開始まであと 12~13 分というところで、ふたたび雨が舞い始めた。ただ、本当にポツポツといった雨で、すぐにコースを濡らすものには見えなかった。周囲のライバルたちは、パレードラップ開始 5 分前のタイヤ交換可能時間を前に続々とウェットタイヤに交換するが、村田卓児エンジニアはタイヤ選択に悩みに悩んだが、ギリギリのタイミングでチームが下した結論は「スリックタイヤでいく」ということだ。

「あの時点では雨は大したこともなかったんです。今回は予選の位置も 12 番手でしたし、予選までは速さが足りなかった。レースでは燃料流量リストラクターが絞られていることもあって、まわりと同じ戦い方をしていたのでは、パワーの面で上位に行くことはできない」と村田エンジニア。

宮城県警のパトカー 3 台によるパレードラップがスタートすると、コクピットの立川は「これはいける！」と好感触を得た。GT500 クラスでは ZENT CERUMO LC500 を含む 4 台だけがスリックを選択しており、この天候なら序盤大きなジャンプアップを望める。しかし、パレードラップが終わり、1 周のフォーメーションラップがスタートすると、無情にも雨脚が一気に強くなり始めてしまった。



スタートしてから路面が一気に湿っていくなか、コクピットの立川はなんと



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

かスリックタイヤで ZENT CERUMO LC500 をコースに留めつつ天候が回復するのを祈るが、雨脚は変わらない。滑るコース上で立川は奮闘するも、他のスリックの3台とともに GT300 クラスのマシンたちにもかわされ、2周目には総合 31 位、3周目には総合 36 位にポジションを墮としてしまった。

雨脚が一気に強くなれば、作戦を即座に切り替え立川をピットに戻すことが可能だったが、空は明るく、雨も少しずつだが弱まる時もある。ただ、路面はスリッピーなまま……。なかなかチームは立川をピットに戻すことができなかった。首位が 18 周を終えたとき、チームはついに決断を下す。立川を呼び戻し、ZENT CERUMO LC500 はウエットタイヤに交換してふたたびコースインしていった。

もはやポイント獲得も難しい展開となってしまったが、立川はウエット路面で粘りの走り続け、49 周を終え石浦宏明に交代する。すでにその時点では雨は止み、路面は無情にもドライコンディションに転じていた。石浦は次戦に繋がる走りを見せるべく、ふたたびスリックタイヤを装着すると、チェッカーに向け ZENT CERUMO LC500 を運んだ。

最終的に石浦は、自らの周回の 6 周目に 1 分 14 秒 261 という、GT500 クラス 2 番手のラップタイムをマークしつつ、13 位でチェッカーを受けた。もちろんポイント獲得には届かなかったが、このレース後半で石浦は次戦へのたしかな手ごたえを得ることができた。

真夏の 3 連戦はまだ始まったばかりだ。今回、LEXUS TEAM ZENT CERUMO のチャレンジは“不発”に終わってしまったが、幸か不幸か燃料流量リストラクターの制限も、2 段階あるうちの 1 段階のまま。LEXUS TEAM ZENT CERUMO のメンバーは続く富士、鈴鹿の 2 戦での逆襲への思いを胸に、SUGO を後にした。



LEXUS TEAM ZENT CERUMO



ドライバー／立川祐路

「不安定な天候でしたし、予選順位もうしろだったので、スリックタイヤに賭けるという戦略を採りました。結果的には残念ながらうまくいきませんでした。ただ、こればかりは悔やんでも仕方ありません。その分、次戦富士ではウェイトハンデも増えていませんし、今回の分をしっかりと取り戻すつもりで頑張りたいと思います」

ドライバー／石浦宏明

「戦略がうまくいかないレースでした。ただ、最初にトライした選択は決して失敗とは思いません。トライした結果だと思っています。そのなかでもう少し挽回することはできたと思うので、そこは反省点だと思います。僕のスティントはドライコンディションで走りましたが、次戦に繋げることを意識して走り、ベストラップもファステストラップに近いものを刻むことができました。クルマの手ぶたえをしっかりとつことができ、次戦に繋がるスティントにできたと思います。SUPER GTはいつも上位にられるレースではありません。こうして悪い結果に終わった後にしっかりポイントを獲らないとチャンピオンには届きません。この3連戦が終わった後にポイントを重ねられればと思っているので、次戦富士でしっかり得点を獲りたいと思います」

LEXUS TEAM ZENT CERUMO

浜島裕英監督

「レースとしてはスリックタイヤに賭けたのですが、その後リカバリーすることができなかったことを十分反省して次戦に向かわなければならないと思います。スリックの選択は予選順位が悪かったことで、ドライバーたちとも相談して決めたことです。パレードラップまでは良かったのですが、フォーメーションラップで勝利の女神にそっぽを向かれてしまったということですね。結果はうまくいきませんでした。結果はうまくいきませんが、悪いストーリーではなかったと思います」



LEXUS TEAM ZENT CERUMO

決勝結果表

Rank	Car No.	CarName	Laps	BestLapTime
1	1	DENSO KOBELCO SARD LC500	81	1'14.951
2	46	S Road CRAFTSPORTS GT-R	81	1'14.570
3	6	WAKO'S 4CR LC500	80	1'14.950
4	23	MOTUL AUTECH GT-R	80	1'14.748
5	8	ARTA NSX-GT	80	1'14.219
6	16	MOTUL MUGEN NSX-GT	80	1'16.096
7	36	au TOM'S LC500	80	1'15.549
8	64	Epson NSX-GT	80	1'16.063
9	100	RAYBRIG NSX-GT	79	1'15.292
10	37	KeePer TOM'S LC500	79	1'15.500
11	12	カルソニック IMPUL GT-R	78	1'14.772
12	19	WedsSport ADVAN LC500	77	1'14.946
13	38	ZENT CERUMO LC500	76	1'14.261
14	24	フォーラムエンジニアリング ADVAN GT-R	34	1'23.011
	17	KEIHIN NSX-GT	2	1'34.260